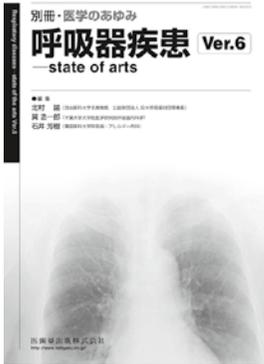


書評 BOOK REVIEW

『別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患
—state of arts Ver. 6』
(北村 諭・巽 浩一郎・石井芳樹 編)



- B5判, 520頁
- 定価 12,600円
- 医歯薬出版刊

わが国はいよいよ超高齢社会となり、肺炎を中心とした呼吸器疾患の罹患率が急速に増加し、国民死亡原因に占める割合も脳血管障害とともに第3位となり、80歳以上の高齢者ではがんに次いで第2位となっている。そこで今日ではその適切な対応が医学・医療ばかりでなく、社会的な視点からも喫緊の課題になったといえる。このような状況において、本書『呼吸器疾患—state of arts Ver. 6』は呼吸器疾患の最新情報を組み込むとともに、全領域をカバーしたハンドブックとしてその位置づけがますます重要となり、注目されている。

そもそも本書は1991年に刊行され、爾来呼吸器疾患に関する医学・医療の進歩に即して約4年の間隔で常に改訂が重ねられ、この程、第6版が上梓された。この間23年に及ぶ過程の中で数多くの専門書が発行されたが、本書は呼吸器疾患に関するもっとも基本的な教科書としてゆるぎない評価を受け、呼吸器領域のみならず他の領域の医師、研修医さらに医学生などから幅広く支持されてきたところである。これには、『医学のあゆみ』誌の別冊としてstate of artsシリーズを企画され、まず呼吸器疾患から編集された北村 諭先生が、病態生理に関する基礎的研究から臨床領域における実践的な課題まで、時代のニーズに応じて約150

項目に体系的にまとめ、わかりやすく解説した、まさにstate of artsとしての本書の性格づけを確立されたところが大きいと思う。さらに、その後の定期的な改訂にあたって、北村先生が引き続き編集されてこられたことにより本書のそのような伝統がしっかりと引き継がれてきたこと、そして改訂時には常に最新の研究成果と臨床成績を盛り込んで、内容の一層の充実を図られたことも、高い評価を得ていることの重要なポイントになっている。

このような本書が、きわめて多数の執筆者による大部の書であるにもかかわらず、約4年ごとに改訂し発行することは、編集に当たられた方々、多数の執筆者のご尽力はいうまでもなく、発行元の医歯薬出版が編者の意図を十分に理解し、全幅の信頼を置いて確かな編集方針のもとで事業を継続してこられたことも大きくかかわっていると思う。

本書ではまず、第1章・病態生理、第2章・診断法、第3章・治療法が最新の知見を中心に多項目にわたって体系的に、そして実践的に総論としてわかりやすく解説されている。とくに、分子生物学の進歩に基づいた知見、そして最近の進展が著しい画像診断法が実例をそえて提示されていることが注目される。引き続いて第4章では、呼吸器疾患の全領域にわたって108の疾患について、その病態、診断、治療が体系的にそして実践的に図表も多用して解説されている。さらに、各項目ごとに重要事項が“Key point”として要領よくまとめられていることも本書の特色のひとつになっている。また、各項目の解説の理解をより一層深めるために、“サイドメモ”が必要に応じて記載されている工夫も、読者にとって大変有難い企画である。

超高齢社会でますます高まる呼吸器疾患の重要性を鑑みるとともに、奔流のように進歩する医学に的確な対応が求められる今日、本書はまさにstate of artsの題名にふさわしいハンドブックとなっており、呼吸器専門医ばかりでなく、臨床で幅広く活躍している医師、そして医学生にも必携の書として推薦したい。

(国際医療福祉大学総長、矢崎義雄/ やぎきよしお)